

# 2020年、三鷹市は市制施行70周年を迎えます

令和の時代を迎えて初めての新年、そして東京でオリンピック・パラリンピックが開催される今年、三鷹市は市制施行70周年を迎えます。三鷹市が誕生したのは戦後間もない昭和25(1950)年11月3日。当時、約5万4千人だった人口は、昭和39(1964)年の東京オリンピック開催時には約11万9千人に増え、現在では18万8千人を超えるまちへと発展してきました。

三鷹市は一番身近な行政として、これからも市民のみなさんとともに、時代を超えて輝き続ける「明日のまち・三鷹」のまちづくりを推進していきます。



写真左から、市制施行の旗行列 三鷹駅南口(昭和25年)、東京オリンピックの聖火リレー(昭和39年)、三鷹の森ジブリ美術館がオープン(平成13年)、平成21年に開館した星と森と絵本の家の新年鏡開き(3面参照)、東京2020オリンピックテストイベント「READY STEADY TOKYO—自転車競技(ロード)」(令和元年)、三鷹駅南口中央通り東地区に整備予定の「子どもの森(仮称)」イメージコンセプト



70th  
ANNIVERSARY  
三鷹市市制施行70周年

©2001 スタジオジブリ

## 70周年記念事業を盛り上げよう！

三鷹市全体が「ONE TEAM」となって、市民のみなさんと市制施行70周年をともに祝い、ともに楽しむさまざまな記念事業を実施します。詳しくは今後の『広報みたか』などでお知らせします。

◆**みたか周年祭** 10月31日(出)

同時期に周年を迎える三鷹商工会、JA東京むさし、三鷹駅、小田急バス(株)と協力して、三鷹駅周辺の複数の会場で、参加型のイベントなど幅広い世代が楽しめるお祭りを開催します。

◆**記念式典** 11月3日(火・祝)

◆**コミュニティバスのラッピング、記念図書・記念動画の制作** など

## 70周年記念ロゴマークができました

スタジオジブリの宮崎駿監督がデザインした三鷹のキャラクター「Poki(ポキ)」をあしらったロゴマークが、記念事業に関連したさまざまな場所に登場します。どうぞご注目ください。

## 新春対談 4・5面



三鷹市出身の指揮者・沼尻竜典さんをお招きし、河村孝市長と語り合っていました。

いよいよ「令和の大改革」の始まりです。

三鷹駅前前の再開発をはじめ、半世紀以上たったコミュニティ行政の在り方、福祉や教育の今後の進め方、抜本的な災害対策など、課題は目白押しです。全てが一気に変わるわけではありませんが、そのための準備は必要です。深刻になりがちなそれらの課題も、ワクワクしながら楽しく、そして真面目に議論していきたいと思っています。大切な「ふるさと三鷹」の未来を、一つ一つ皆さんの手で形作っていきましょう。



三鷹市長  
河村 孝

「令和の大改革」が始まります